

おはよう戸田 2016年度 第2号

戸田市議会議員 2期目 **市民が最優先。**

**酒井** 無所属 41才  
いくろう



# 「市民が損をしない政治」を

私が市議会議員を目指したきっかけの1つは、税のムダへの反感です。実際に市議会議員として活動して感じるのは、行政や議会が、一般市民の感覚から大きくずれている、ということです。

- ・税の使い道に関し「みんなのお金を使っている」という意識がうすい。
- ・私たち市民の側に立った配慮が足りない。

こうしたことを感じる場面が、まだまだあります。

税のムダを放置すれば、高いお金を払って、質の低い行政サービスを受けることになり、私たち市民が損をします。これまで私が2期8年間、税を有意義に使おう、市民の意思を反映しようと、自分なりに筋を通して活動してきた各分野で、ムダ削減が実現しつつあります。

税のムダ一掃に近道はありませんが、活動を続けることで必ず改善していきます。

今号からシリーズで、今後取り組みたい課題について、皆様にお知らせします。

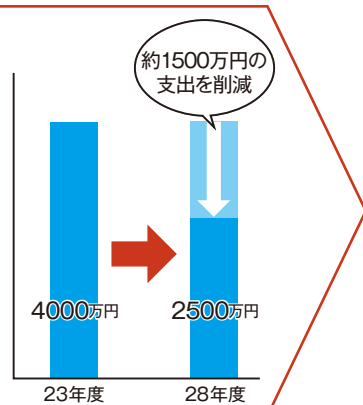
## 「はっきりと道筋のついた」課題 ケース① 支出の削減

- ・市内3か所の地域包括支援センター（福祉施設）のうち1か所に、国や県からの補助金が下りていないことに気付く。補助金確保による支出削減を提案（23年6月議会）

- ・しかし、その後も市当局は26年までアクションなし

やっと改善したもの...

- ・27年3月ようやく補助申請を行い、年間1500万円の財源を確保
- ・しかし、逸失した財源は6年間で約1億円。市財政への大きな痛手に

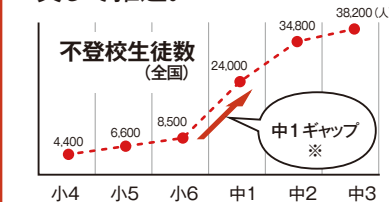


### 酒井いくろう

1975年3月4日生まれ。無所属、2期目。会派「戸田の会」代表 【略歴】東京大学医学部健康科学看護学科卒業、同大学院修了（医療政策）、マッキンゼー（経営コンサルタント）、㈱ポピンズ（保育）、医学教育。2009年より戸田市議会議員【家族】妻、子3人（娘（4才・2才）、息子（0才））※初選挙より選挙カーを使わず、政策本位で活動中

## 「はっきりと道筋のついた」課題 ケース② 教育改革、学力の向上（裏面参照）

- ・小中一貫化の優れた教育効果に着目。2009年の初当選時より一貫して推進。



2021年、戸田東小・中学校の一貫化が決定！

今後の課題：小中一貫化の効果を最大限引き出したい！

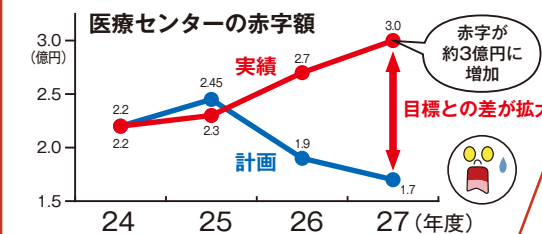
- ・異学年交流や一貫したカリキュラムの最大限実施を！
- ・市内全小中学校への一貫カリキュラムの拡大を！

※中学進学時の生活・学習の変化についていけず、不登校や学力不振につながる「中一ギャップ」が問題になっています。小中一貫化は、公立小・中の学習環境やカリキュラムに連続性をもたせることで、「中一ギャップ」の解消を図ります。導入校では、学力、意欲、体力面など、いずれをとってもはっきりした効果がでています。

## 「まだまだこれから」の課題 ケース③ 市民医療センターの赤字解消と「医療の質」

ここがポイント

- ・27年度は約3億円の赤字
- ・医師が集まらない等の原因で医療機能が低下
- ・しかし、経営改善にむけた提案を、医療センター当局は拒否（27年9月議会）



財務当局が「民間委託等を検討する」計画を発表

今後の目標

- ・住民ニーズに合わせた医療サービスにより患者数を増やし、収支の安定化を！
- ・従来計画の検証、民間委託の検討など、立て直し加速を！
- ・地域住民にいていない説明を行い、経営改革への理解促進を！

## 「まだまだこれから」の課題 ケース④ 議員特権の廃止（裏面参照）

前期（21-24年度）末当時

- ・費用弁償（出席手当。視察や海外派遣の際も支払われる）：1日当たり3000円
- ・「報酬額は県内平均のほぼ3倍」衛生センター議会、競艇議会の議員を、ほぼ全議員が兼職
- ・議員海外派遣：4年間の任期中に、全議員ほぼ1度づつ

今期（25-28年度）改善した部分も...  
・費用弁償：3000→1500円に  
・海外派遣：3回18人→2回10人に（回数、人数が減少）

次はコレを実現したい

- ・費用弁償の廃止を！
- ・海外派遣の大幅な見直し（または廃止）を！
- ・議会を能率化し、議員報酬3割カット！
- ・「行政への要望をすべて公表」口利き防止条例の制定を！



酒井いくろうは、

1. 「市民が最優先」しがらみのない立場で、「既得権を持った一部の人間」ではなく、「市民」の意思を反映してまいります。
2. 「税金のムダ一掃」行政の効率化に近道はありません。コストを分析し、具体的なムダを指摘していきます。
3. 「議員特権の廃止」議員特有の手当や制度を廃止し、支出の削減をはかります。





## 議員特権の廃止、今度こそ! ~次はコレをターゲットに~

**私**が議員になる以前、一市民として議員特権を理不尽と感じていました。議員になってからは、行政改革(ムダ一掃)の必要性を痛感しましたが、議員自身の特権廃止を進めなくては、恥ずかしくて「ムダ一掃」など提言できない、という思いもあり、これまで誰よりも積極的に「議員特権の廃止」を推進してきた自負があります。

私の考えでは、まず議会には能率化の余地があります。形式的、非効率的な業務を精査すれば、全体の作業量を30%程度は減らせると思います。これにより報酬も3割カットできます。

次に、市議会議員としての対価は報酬として得ているため、それ以外の収入は本来不要。交通費の意味合いである費用弁償(表面参照)については廃止が妥当。また、ほぼ全市議会議員があて職として、衛生センター議会、あるいは競艇議会の議員を兼ねていますが、これら兼職に対しても高い報酬(「県内平均のほぼ3倍」の衛生センター議会、「全国トップクラス」の競艇議会)が支払われており、大幅な見直しの余地があります。

費用対効果の面からは、議員海外派遣の大幅な

見直し(または廃止)の他、各委員会等の県外視察についても他自治体より格段に多く実施されており、精査・削減の余地が大きいと考えます。

議会透明化の観点からは、①「行政への要望をすべて公表」口利き防止条例の制定、②政務活動費の用途や視察内容の外部監査&ウェブ公開を義務化、③「お手盛り防止」議員報酬、議員定数を独立した外部委員会に諮問、など。

その他、戸田市表彰の対象から市長・議員を除外する等、言い出せばきりがありませんが、気付いた時点で1つ1つ是正していくのが望ましいでしょう。



市町村の議員有志による「議員年金廃止デモ」に参加(2010)。議員が国家・自治体の財政に多大な負担をかけることは慎むべきではないでしょうか?

## 『値上がりしたのに不便になった』駅前駐輪場 ~多くの子育て世帯に多大な不便~

**お**役所仕事」という言葉があります。以前よりはだいぶ改善しましたが、市民の側に立った配慮が足りないと感じることもあります。本件もこうした例の1つです。

今年度、市営の駅前駐輪場が変わりました。最大3倍の値上げに利用者の不満が大きだけでなく、2人、あるいは3人乗りの「子ませ自転車」を、朝は父親が駐輪し、帰りは母親が乗って帰るといったような、複数名利用ができなくなりました。これにより、子ませ自転車による保育所の送迎を父親、母親が分担する「送迎シェア」ができなくなってしまいました。

子育て支援の観点でも、市民サービス向上の観点でも、公平性の観点でも、こうした改善は行わざるを得ないと思います。一般市民から見れば理解不能な「原理原則」により、ただでさえ大変な共働きの子育てに、余分な金銭的、時間的負担をかけて

います。

酒井の議会質問(28年6月)の中で印象的だったのが、担当部長の「子育て支援と駐輪場は関係ない」という答弁です。戸田市は「子育てのまち」を打ち出しており、市内に看板まで出して子育てを応援していることをアピールしていますが、その方針は役所全体には浸透していない、ということです。

こういうことをできるように検討していけないのであれば、文字通り「子育てのまち戸田」の看板を下ろした方がいいと思います。



「子育てのまちとだ」の看板が泣いています。

## ついに小中一貫化が実現へ! ~戸田の教育改革『本丸』が始動~

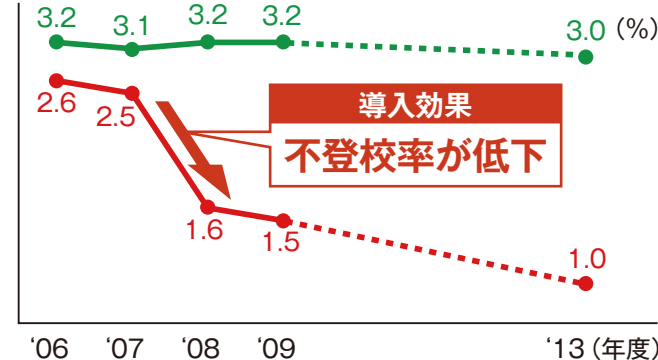
**戸**田市において、2021年に小中一貫校が誕生します。戦後教育の基本である6・3制に変化をもたらす、大きな方向転換となります。

6・3制の欠点として、中学進学時の生活・学習の変化についていけず、不登校や学力不振につながる「中一ギャップ」の問題があります。小中一貫化は、公立小・中の学習環境やカリキュラムに連続性をもたせることで、「中一ギャップ」の解消を図ります。

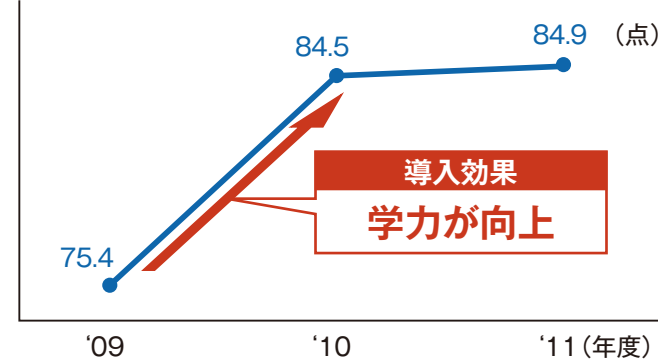
特筆すべきはその効果です。すでに全国には1000校以上の公立小中一貫校がありますが、そのほぼすべてにおいて成果が認められています。不登校の減少、各学力調査における得点の上昇、生徒の規範意識や自尊感情の向上、教職員の生徒理解や指導意欲の高まり...などあらゆる面でプラスの結果が出ています。

### ▼導入校では、はっきりした効果がでています▼

#### ■ 中学校の不登校率(三鷹市※08年に小中一貫化)



#### ■ 小中一貫化による学力向上(三鷹市 小五算数)



ところで、戸田市においては、隣接した戸田東小・中を別々の学校として運営する「小中一貫校」方式を軸に検討されています。しかし、市内では唯一、小中学校が隣接する恵まれた環境を生かし、小中学校を1つの学校として一体的に運営する「義務教育学校」方式も考えられます。

小中一貫化の効果は、当然、小中学校の連携が強いほど大きくなります。学校トップ(校長)が2人おり、小学校教員と中学校教員の職員室がバラバラの環境では、せっかくの小中一貫カリキュラムの効果も半減です。戸田市教育委は、「義務教育学校」方式の導入を真剣に検討すべきと考えます。

さらに、小中一貫化の恩恵を、たった1校に留めてはいけません。すでにある全国1000校以上の小中一貫校のうち、戸田東小・中のような「施設一体型」は少数派であり、小中学校が離れた場所にある「施設分離型」が8割を占めています。市内全学校における小中一貫カリキュラムの導入を、早期に実現すべきではないでしょうか。

このように、小中一貫化の効果を上げるためには課題もあります。より良い形での小中一貫化の実現に向けた提案を行っていくと同時に、行政・議会内の慎重派(=抵抗勢力)にしっかり対峙し、改革を後退させぬよう論陣を張っていくつもりです。

さて、今年度の学力調査において、戸田市は県内トップクラスの成績を上げました。数年前には考えられなかったことであり、現在までの教育改革は効果が上がっていることを示しています。この上さらに、小中一貫化の導入を成功させることで、戸田市の教育は全国トップクラスの地位を確立できると思います。優秀な子ども、市外の国私立小中への進学が不要になる時代も夢ではありません。



### 戸田市議会議員 酒井いくろう

質の高い議員活動のためには、皆様からのご意見が必要です。どのようなことでもぜひご一報下さい。

【TEL/FAX】048-432-9168 【Eメール】ikuro.sakai@gmail.com

【ホームページ】sakai-ikuro.com

【フェイスブック】www.facebook.com/sakaiikuro

